



和太鼓部 大阪府高校芸文祭 3連覇

和太鼓部名誉顧問

和太鼓部は阪神大震災の年に創部し、今年26年目を迎えます。これまで全国高校総合文化祭には16回出場。うち優秀賞・文化庁長官賞を2回、優良賞も2回受賞し、東京の国立劇場や京都コンサートホールでの優秀校招待公演も経験し、全国大会常連校と呼ばれるまでになりました。



しかし、本校和太鼓部が大坂代表として不動の地位を築いているかといえ、そうはいかない厳しい現実があります。大阪芸文祭では、毎年10数校が出場し、他校のレベルが年々高くなって、10年ほど前から3連覇ができません。連続優勝後の3年目には必ず負けるのがジンクスだったのです。それで、今回の大阪大会では何としてもそのジンクスを破り、「3連覇」を達成することが、部員と顧問の大きな目標でした。しかし、今回は新型コロナウイルスによる演奏会の相次ぐ中止で演奏技術が上がり、さらに、緊急事態宣言による部活時間短縮など、不安要素ばかりでした。しかし、少ない練習時間でも的を絞った必死の練習の結果、2位に大

差をつけて優勝することができました。

和太鼓部では2年前から「高槻の歴史シリーズ」と題して、いづれも部員たちが作った曲で芸文祭優勝をしています。1作目は今城塚古墳の被葬者ヲホド大王の先進性を称えた「暁の大王」、2作目は伊勢物語の芥川の段の、在原業平と藤原高子の悲恋を描いた「恋歌(れんか)」です。そして3作目の今回は高槻城主だったキリシタン大名の高山右近をテーマにした「明星(あかぼし)の夜明け」という曲です。

高山右近は戦国時代、摂津の東側にあった芥川山城や今の現代劇場そばにあった高槻城の城主になり、外国人宣教師を招いて復活祭を祝うなど、キリスト教徒が7割を占める国際的な宗教都市を作り上げました。彼は豊臣秀吉や徳川家康からキリスト教への弾圧を受けましたが、大名の地位を捨てても棄教せず、最後はフィリピンに追放されます。しかし、その航海の船上で右近の心は決して敗北感ではなく、希望と喜びに満ちていました。全員で右近についての学習会をし、部員は右近に尊敬の念を持ちながら、彼の心中の葛藤と人々への愛を太鼓で繊細かつ、力強く表現しました。

作曲など経験したことのない生徒たちが、試行錯誤しながら作ったオリジナル曲が、芸文祭や全国大会で上位入賞するなど、高く評価(いざずれも「A評価」)されているのは驚くべきことです。ほとんどの高校は、作曲家や顧問の先生が作った同一曲を毎年演奏し、しかも、選抜メンバーで勝



負をかけて来るのです。それに対し、本校は敗れて、部員が作る1回限りの曲で、毎年、白紙からスタートし、「全員太鼓」の合言葉通り、選抜をせず、部員全員が演奏に参加します。賞狙いなら、他校のように上手な生徒だけを集めて、同じ演目を毎年積み重ねて磨いていくのが常道です。本校はそれとは真逆に、自分たちが試行錯誤しながら作った勝負曲を、未熟さと闘いながら長時間かけて磨いていき、本番では乱れなく演奏する。入賞した時の達成感と充実感を全員で味わう。これが本校和太鼓部のやりかたです。和太鼓部は、仲間を大切に、自分たちの底力を開花させ、自らの可能性を発見して成長させることのできる場となっています。部員たちは今回の大阪大会優勝を自信にして、さらに大きく成長すべく、全国大会への厳しい道のりを、さらに先へと歩き始めます。

2年生 分野別ガイダンス 2年進路指導部

2月26日(金) 2年生は分野別ガイダンスを実施しました。9:45~10:15は分野別講演会(大学短大・専門学校・看護師・就職)それぞれの分野で講演が行われました。内容は、大学と専門学校の違いや、学校選びの方法や入試スケジュールや入試の形態の変化、学費についてなどの説明がありました。「短時間で、ポイントが絞られていてわかりやすかったです。」と好評でした。10:25~11:05は各学校の説明会(約40校)が行われました。各学校から学部学科についての説明や、今どのような勉強をするべきか、などを詳しく語っていただきました。生徒の感想には、「色々な学校のオープンキャンパスに行ってみようと思った。」「説得力があった。すみずみまで説明してくれて、とても分かりやすかったです。」とありました。

先輩の話を聞く会 報告 1年進路指導部

2月26日(金)、毎年大変好評の進路ホームルーム、「先輩の話を聞く会」を行いました。今年先輩が教室にくる形をとらず、あらかじめ録画した動画を各教室で視聴しました。3年生

の代表6名が話してくれました。今年は、1年生だけでなく、2年生も各HR教室にて、動画を視聴しました。質疑応答ができない分はあらかじめ生徒にアンケートをとり、まとめた質問内容に事前に目を通してもらい、回答も交えて話してもらいました。主な内容は「高校時代にどんなことをしたか」「進路について考え始めたから目標の設定、目標達成までの経緯」「努力したこと、つらかったこと、うれしかったこと」「先輩へのメッセージ・アドバイス」などについてです。身近な先輩の体験談に、熱心にメモを取りながら聞いていました。

先輩からは、「模試の判定が悪くてもあきらめない。誘惑に負けないように、スマホ電源を落としたり、過去問を解きまくった。」「平日4~6時間、休日7時間、最大13時間勉強した。」「自分の足でオープンキャンパスに行くことで知らないところを知れた。オープンキャンパスは1回以上行くようにする。」「経営学を学びたいと決めたが、選択肢が多く、通学時間や模試を受けて偏差値を基準にして学校を選んだ。ネットでの情報も参考にした。」「英検2級以上取得していることが条件だったので、早めに取っておいてよかった。」などの熱い言葉が寄せられました。

1年生の感想には、全体的に進路を決める方法や受験方法についての感想が多く、日々の勉強はもろろんのこと、受験について調べておくことが大事だと考えたようです。記述の中には「授業の一つ一つが定期テストや入試にかかわるものになるから、毎日を大切にすることが大切だと思った。」「あの時こうしとけば良かったと後悔してしまうことがないように、毎日一つの目標を決めて、コツコツ頑張る。最終的にはあの時頑張っていた良かったと思えるように、先のことをしっかり考えて前向きに頑張りたい」と思っています。「朝に勉強するのがおすすめたと言っていた先輩が多かったので、私も朝に勉強することを心掛けたと思います。」「進路が決まったら早めに受験方法や、どの受験方法が自分に向いているのか決めるようにしたいです。」等あり、しっかりと受け止めていたようです。先輩たちのメッセージをそれぞれが活かして出来ることから始めてもらいたいと思います。